



先の週末は桜が満開でした。桜を見に行かれた方も多かったのではないのでしょうか。チャペルのメンバーから京都の桜の名所ランキング(個人の主観による)を教えられ、私たちもその1位の「原谷苑」に見に行ってきました。

「原谷苑」は金閣寺の北西の山間部、原谷にある桜の名所で、もともと不毛の土地を開墾した個人庭園でしたが、植えた桜が今では見事な庭園となり、例年4月上旬から下旬までと、紅葉に時期の11月下旬から12月上旬に一般公開されます。苑内の桜は20数種類、400本以上で、敷地内は、桜・桜・桜・・・と桜が咲き乱れます。紅枝垂れ桜、薄墨桜、ソメイヨシノ、そしてメインの八重紅しだれ、黄桜、緑桜、菊桜、郷桜など、4月下旬まで順次咲き続けます。

私が感動したのは、桜の見事さだけでなく、その足元に配置されたユキヤナギ、レンギョウ等の桜以外の花と桜とが相まった調和された美しさでした。ソメイヨシノの薄紅も良いけれど、色んな木の花に色があり、全体として調和した花や木は見事でした。

そこで思い出したのは、以下の聖書の言葉です。

ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。(コリント人への手紙 第一 12章 12、26～27節)

種々の木や花がお互い役割を果たして、ひとつの風景(からだ)を作っている。阪南バイブルチャペルも、このように一人ひとりが役割を果たしつつ、ひとつの教会を建てあげて行きたいと思います。